

人間の家族が増える時

大人：

結婚などで家族が増えた場合や、事情により別々に暮らしていた家族が同居するようになった場合など、これまで一緒に生活していなかった人と同居することになった場合に猫がその人を恐がったり、嫌ったりする場合があります。

特に幼い頃からあまり多くの人と接する機会がなかった猫では人見知りする事が多く、女性が飼っていた猫では男性を恐がる場合が多いようです。また大きな声や物音を嫌う場合も多いようです。

猫が拒否反応を示しても、あまり気にとめず知らん顔していきましょう。隠れているのを無理に引っ張り出してきて慣らそうとしたり、叱ったりするのは逆効果です。

猫が安心して隠れる事の出来る場所を与え、自分から出てくるのを待ちます。

猫が少し落ち着いてきたら、新しい家族のメンバーに猫の食事や好物を与えてもらうようにしましょう。

赤ちゃん：

家族のメンバーとして赤ちゃんが増えたとき、猫は人間の幼児や犬のようにジェラシーからさまざまな問題行動を起こす事は少ないようです。

ただし赤ちゃんが生まれたとたん猫の行動範囲を制限したり、厳しくしかったりするとストレスから問題行動を起こす可能性もあります。また赤ちゃんに対する印象も悪くなってしまいます。

もし赤ちゃんの寝室に猫を入れたくないのなら、赤ちゃんが生まれる前からその部屋には入れないようにしておきましょう。

猫に赤ちゃんのおふとんを横取りされなくなかったら、猫を叱るよりももっと寝心地の良い場所を猫に作ってあげる方がうまくいきます。

そして赤ちゃんが生まれると、とても忙しくてなかなか猫とゆっくり過ごす時間がないとおもいますが、

短時間でもこれまでと同じように猫を抱いたり、撫でたりする時間を作ってみてください。猫も安心するでしょうし、あなた自身もリラックス出来るはずです。

赤ちゃんの方も少しずつ周りの事がわかるようになれば、猫に興味を持つようになります。

赤ちゃんの鳴き声は猫の鳴き声に似ているためそれに反応する猫もいます。私が昔飼っていた猫も、赤ちゃんだった弟が泣くと必ずそばに行って耳を触らせてやっていました。弟はその猫の耳をクチャクチャ触りながらほ乳びんでミルクを飲んでいたものです。

ある程度落ち着いた年齢の猫は、自分から赤ちゃんにちょっかいをかけたりいたずらする事はありませんが、悪気はなくても赤ちゃんが猫のしっぽや体を掴んで、猫がびっくりして引っ掻くなどの事は起こり得ると思いますのでお互いに慣れて、きちんと絆を結べるまでは大人がよく見ておいてあげましょう。

まだママのミルクが恋しい年齢の子猫では、赤ちゃんのミルクの匂いで、口元に寄っていく事がありますので、いたずらをしないように充分注意する必要があります。



我が家の場合

我が家のもみぞうが、生まれて2週間目の娘を見たときにはものすごく驚いたようでした。プリアの方は私の甥が赤ちゃんの時に一緒に過ごした経験もあり、特に驚いた様子はありませんでした。

娘が生まれて一ヶ月目から同居するようになりましたが、最初は近寄ってきませんでした。2週間もすると猫達もすっかり慣れて、近くですやすやす眠るようになりました。もちろん娘はこの頃はまだ猫に対して無反応でした。

娘は生後5ヶ月頃から猫を目で追うようになり、ハイハイが出来るようになると一生懸命近づいて触ろうとするようになりました。

最初はうまく触れずにぎゅっと掴んでしまうので猫が嫌がって逃げてしまっていたのですが、少しずつやさしく撫でる事を教えると1歳半頃までにはかなり上手に触れるようになりました。

時々しつこく触りすぎて、怒った猫に咬まれて泣くこともありましたが、猫も手加減しているようで怪我をしたことはありません。

今娘は3歳ですが、娘も猫とのつき合い方をかなりマスターして咬まれる事もあまりなくなりました。咬まれて泣きついて来た時にはやさしく猫の撫で方を教えています。

赤ちゃんの頃からずっと猫と一緒にいたおかげか、とても猫好きです。朝目覚めると、猫の所までごそごそと這っていき、猫の体に顔を埋めて朝のあいさつをしています。

保育園から帰った時も「プリア、もみぞう、ただいま！」とまっ先にあいさつをしています。

娘にとっても、猫達はかけがえのない家族の一員のようです。

このペーパーは株ベツト・ベツト社が提供する

PET LOVERS' FORUM (<http://www.pet-vet.or.jp>)で、もみの木動物病院 村田香織先生が提供されたものを一部改編して作成しております。

イラスト著作：くぼじょうこ



このペーパーは下記当院のインターネットホームページで24時間無料で取り出せます。また、ホームページには他にも様々な情報が掲載してありますので、ぜひご覧ください。



Copyright (C) 2001 Tatsuya Fukuyama DVM, AFP IKI ISLAND VETERINARY CLINIC.
Tel 0920-47-6767 Fax 0920-47-0350 e-mail: foffice@bronze.ocn.ne.jp
<http://www.ikikoku.com/pet.html>